

ポルトガル月報

2018年5月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政・外交】★コスタ首相、カナダを訪問／★メルケル独首相、ポルトガルを訪問

【経済】★第1四半期失業率と実質経済成長率

内政・外交

★コスタ首相、カナダを訪問

5月1～5日、コスタ首相はカナダを訪問した。カルデイラ・カブラル経済大臣、カルネイロ外務省コミュニティ担当副大臣、ブリリヤンテ・ディアス同省国際化担当副大臣、コルデイロ・アソーレス州知事、カストロ・エンリケスAICEP（ポルトガル投資貿易振興庁）長官等が同行した。

3日、首都オタワでトルドー首相と会談したコスタ首相は、共同記者会見に臨み、両国がNATO加盟国である点やEUとカナダが2016年に調印した包括的経済貿易協定（CETA）を踏まえ、「両国は世界に対する共通のビジョンと価値観を有している。我々は人々、国、大陸の間に多くの橋を築きたいと考えている」等述べた。

トルドー首相は、両国が政治・経済の両面で重要なパートナー関係にあるとした上で、特に経済関係の強化に向けては「まだ多くのやるべき作業がある」等述べた。また、アソーレス諸島出身者を中心に45万人に上るとされるポルトガル人コミュニティについては、同国の発展に重要な役割を果たしているとして謝意を示した。両首脳はこのほか、国連改革に向けたグテーレス事務総長の取組に全面的に協力することで一致した。

コスタ首相は同国を訪問中、キングストン、トロント、モントリオールを訪れ、現地のポルトガル人コミュニティと交流したほか、両国の企業家・投資家を対象にした経済フォーラムなどに出席し、ポルトガルへの投

資を呼びかけた。

【写真】会談するコスタ首相（左）トルドー首相（コスタ首相の公式ツイッターより転載）



●カブリタ内務大臣、欧州アフリカ閣僚会議に出席

5月2日、カブリタ内務大臣はモロッコのマラケシュで開催された移民・開発に関する欧州アフリカ閣僚会議に参加し、「人身売買や不法移民の仕組みを解消する唯一の手段は、合法かつ安全な仕組みを構築するために各国が協働すること」等と述べた。その上で、ポルトガルは中長期的な経済・社会の発展に向け、より多くの移民を必要にしているとして、この問題の解決に積極的に取り組む姿勢を示した。

同会議には国連、欧州委員会のほか、欧州25か国、アフリカ27か国から閣僚が参加した。

カブリタ大臣は別途、モロッコの内務大臣と会談し、2017年にポルトガル中部で発生した大規模森林火災に際し、モロッコが消火用飛行機を派遣したことに謝意を伝えた。

【写真】閣僚会議で発言するカブリタ内務大臣（ポルトガル政府プレスリリースより転載）



●大西洋国際研究センター設立に向け、協議

5月7日～8日、エイトール科学・技術・高等教育相は、カーボ・ヴェルデで開催されたアソーレス諸島大西洋国際開発センター（通称：AIRセンター）の

設置に向けた第3回国際会議に出席した。同会議には政府、企業、科学系の学術機関の代表者らの約300名が参加し、AIRセンターの設立に向けた取組、ネットワークの構築、企業・学術・政府間の協力や課題等について意見を交わした。同センターの運営には参加国、欧州委員会、国際機関、開発銀行や企業等からの融資が期待されている。設立メンバーはポルトガル、ブラジル、スペイン、アンゴラ、カーボ・ヴェルデ、ナイジェリア、ウルグアイ、サントメ・プリンシペ、アソーレス自治州。現時点でのオブザーバー国は英国と南アフリカ。次回の会議は本年11月にカナリア諸島で開催される予定。

●ユーロソングージェン社の世論調査結果—5月

5月11日、週刊エスプレッソ紙はユーロソングージェン社が実施した世論調査結果を発表した。17年12月以降の政党別支持率は以下の通り。

与党・社会党（PS）と最大野党・社会民主党（PSD）の支持率は、前回調査と比べ、それぞれ0.5ポイント、0.4ポイント下落した。

【問】本日が選挙日ならばどの政党に投票するか。

%	17年		18年			
	12月	1月	2月	3月	4月	5月
PS	40.2	41.3	未実施	41.5	未実施	41.0
PSD	27.9	26.9		28.4		28.0
BE	8.6	8.5		7.7		8.0
CDU	7.0	7.0		7.3		7.5
CDS	6.9	6.9		6.6		7.0
PAN	1.7	1.8		1.5		1.4

■調査期間：5月3～9日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者1170人、調査方式：電話帳から固定電話番号を無作為に抽出、回答率：86.2%、統計上の誤差：3.09%

■PS＝社会党、PSD＝社会民主党、BE＝左翼連合、CDU＝統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）、CDS＝民衆党、PAN＝人と動物と自然の党

●クロアチア大統領、ポルトガルを訪問

5月11～12日、クロアチアのキタロビッチ大統領がポルトガルを訪問した。2017年5月にクロア

チアを訪れたソウザ大統領の招待に応えたもの。



大統領官邸でソウザ大統領と会談したキタロビッチ大統

領は、共同記者会見で、クロアチアはEU構造基金の維持を支持するとともに、言語、科学、教育、文化、スポーツを含む幅広い分野でポルトガルとの関係を発展させていくと述べた。欧州の移民問題については「文盲、政治イデオロギーの過激化、水不足など、我々は移民の出身国が抱えている危機そのものを解決する必要がある」との見解を示した。

キタロビッチ大統領はこのほか、コスタ首相とも会談し、EUの次期多年度財政枠組みに関して議論したほか、両国の経済関係を強化していくことで一致した。夜にはソウザ大統領主催の歓迎夕食会に出席した。

【写真上】ソウザ大統領と会談するキタロビッチ大統領（ポルトガル大統領府HPより転載）

●リスボン裁判所、アンゴラ前副大統領の審理を移管

5月10日、リスボン控訴審裁判所は、ヴィセンテ・アンゴラ前副大統領がポルトガルで犯したとされる汚職・資金洗浄事件に関する審理をアンゴラの裁判所に移管することを決めた。

ソウザ大統領は訪問先のイタリアで記者団に対し、ポルトガル・アンゴラ関係の「いらだたしいことが消えた」と述べ、裁判所の決定を歓迎する意向を示した。コスタ首相も同日、リスボン市内で「両国間に存在していた唯一のいらだたしいことが消えてうれしく思う」と語った。ポルトガル検察はこれまでアンゴラの裁判所に対する不信感などから、同審理を同国へ移管することに難色を示していたが、本裁判所の決定に異議を申し立てない考えを示した。

翌11日、ロウレンソ・アンゴラ大統領は、「今朝、リスボン控訴裁判所の決定についてソウザ大統領と話した。我々は本件の幸せな結果を祝福し、両国の協力関係を前進させることを改めて確認した」とツイッターに投稿した。

●ロペス国防大臣、アンゴラを訪問

5月14～18日、ロペス国防大臣はアンゴラを訪

問した。防衛分野における協力関係を発展させることが主な目的。ポルトガル陸海空軍のトップらが同行し、同国指導者らと面談するとともに、各地の軍事関連施設を訪れた。

14日、ロペス大臣はアンゴラ国防省でジェズス・セケイラ国防大臣らと会談後、ロウレンソ大統領に短時間表敬した。本表敬は当初予定されていなかったものの、ロウレンソ大統領からの提案で急ぎ実現した。ロペス大臣は、記者団に対し、同大統領からポルトガル政府に「友好と（関係）正常化のメッセージ」を届けてほしいと頼まれた旨述べた。その上で、ヴィセンテ・アンゴラ前副大統領の一件を念頭に、「両国は共通の歴史、友好関係、協力関係を有しており、この関係が小さな事件によって妨げられることは決してない」と強調した。

ロペス大臣はこのほか、同国訪問中、防衛分野における新たな協力枠組みプログラム(2018～21年)に署名した。ポルトガルは同様のプログラムをサントメ・プリンシペやモザンビークなどと交わしている。

両国関係の改善を踏まえ、15日、ポルトガル共和国議会の外務・ポルトガル人コミュニティ専門委員会に出席したサントス・シルヴァ外相は、これまで見送られていたコスタ首相のアンゴラ訪問の実現に向け、両国間で具体的に検討を始めたことを明らかにした。



【写真左】ロウレンソ大統領と会談するロペス国防大臣（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

●マルタ大統領、ポルトガルを訪問

5月16～17日、ソウザ大統領の招待に応え、マルタのコレイロ＝ブレカ大統領が同国大統領として初めてポルトガルを公式訪問した。15日、コレイロ＝ブレカ大統領は、大統領官邸でソウザ大統領と会談した後、共和国議会やリスボン市庁舎等を訪問した。ソウザ大統領はコレイロ＝ブレカ大統領との会談後、共同記者会見で、両国が同じユーロ圏加盟国として共通の移民政策や民主主義の価値観を守りながら、「今後

予定されている欧州連合の重要な議論に積極的に参加することが重要」等述べた。

【写真右】ソウザ大統領と会談するコレイロ＝ブレカ大統領（ポルトガル大統領府HPより転載）



●コスタ首相、EU・西バルカン首脳会合に出席

5月17日、コスタ首相はブルガリアの首都ソフィアで開かれたEU・西バルカン首脳会合に出席した。

同首相は会合後、「欧州の安全と繁栄は西バルカン6か国との特別な関係に関わっている。エネルギー、交通、デジタル及び人的なつながりは、欧州の進歩と平和に向けた原動力である」とツイッターに投稿した。



【写真左】首脳会合の様子（同首相の公式ツイッターより転載）

●王毅國務委員兼外交部長がポルトガルを訪問

5月18日、中国の王毅國務委員兼外交部長がポルトガルを訪問し、ソウザ大統領、コスタ首相に表敬した他、サントス・シルヴァ外相との外相会談を行った。外相会談の後、両外相は共同記者会見を行い、サントス・シルヴァ外相は、対中輸出の進展につき前向きな展望を述べると共に、一帯一路の枠組の協力に対する期待を述べた。また年末に習近平国家主席のポルトガル訪問が予定されている旨述べ、その準備のために同外相の秋頃の訪中が予定されていると述べた。一方、王外交部長は、両国が全面的な戦略的パートナーとして幅広い協力関係にあるとしつつ、この関係を海洋分野やポルトガル語圏アフリカ諸国など幅広く発展させていく姿勢を表明した。

【写真右】サントス・シルヴァ外相との共同記者会見の様子（ポルトガル外務省公式ツイッターより転載）



●与党・社会党、バターリャ市で党大会を開催

5月25～27日、与党・社会党はポルトガル中部

レイリア県バターリャ市で党大会を開いた。

11～12日に開かれた同党書記長選挙で96%の支持を集め、2014年、16年に続き3選を果たしたコスタ首相は、本大会の閉会演説で、ポルトガルは、労働者の生活改善に向けた社会協約を必要としていると強調。特に若者の多くが最初に就く仕事の多くが有期雇用である現状を改善し、専門能力を持った高度人材として中長期的なキャリアを歩めるように、改革を進めていく必要があると主張した。

★メルケル独首相、ポルトガルを訪問

5月30～31日、コスタ首相の招待を受け、ドイツのメルケル首相が約6年ぶりにポルトガルを訪問した。30日には、コスタ首相同行で、ブラガにあるドイツ企業ボッシュの新研究開発センターの開所式に出席した後、ポルトでは30か国からの約500名の研究者が勤めているライフサイエンス分野のイノベーションセンターを視察した。31日には、大統領官邸でソウザ大統領を表敬した後、フォス宮殿でコスタ首相と会談を行い、二国間関係、国際情勢及び欧州連合の課題等について意見交換した。会談後の共同記者会見でメルケル首相は、前回の経済危機の真最中の訪問と比べ、「ポルトガルが現在、楽観的な状況に置かれていることは自分にとって大きな喜びである」と述べた。



これに対し、コスタ首相は「このような状況の中でメルケル首相の再訪問が実現したことに満足している」と述べ、

「ポルトガルは、経済・金融危機のページをめくり、EUの過剰財政赤字是正手続を終了し、持続的な債務削減を維持しながら、ユーロ圏への加盟以降最も好調な経済成長、そして過去数十年間で最も高い雇用創出を記録している」と語った。両国首脳は欧州連合の各種課題やEU域外の国際情勢（リビア、シリア、ウクライナ、及びアフリカ開発支援等）についても意見を交わした。

【写真上】コスタ首相との共同記者会見の様子（同首相の公式ツイッターより転載）

経済

★第1四半期失業率と実質経済成長率

5月9日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2018年第1四半期の失業率を前期比0.2ポイント減、前年同期比2.2ポイント減の7.9%と発表した。若年失業率（15～24歳）は前期比1.6ポイント増、前年同期比3.2ポイント減の21.9%。

INEは続けて15日、第1四半期の実質経済成長率を前期比0.4%、前年同期比2.1%と発表した。前期比では、総固定資本形成と個人消費が伸び、内需の寄与度が増加した。

文化

●コスタ首相、「ユーロビジョン」の自国開催を祝福

5月12日、コスタ首相はリスボン市内で開催された欧州の国別対抗歌謡コンテスト「ユーロビジョン」の決勝戦を鑑賞した。同コンテストの昨年の優勝者はポルトガル代表で、自国開催は今回が初めて。

コスタ首相は同日、「おめでとうポルトガル。リスボンのユーロビジョンは、我々の国がこれだけの大規模イベントを迎え入れられるだけの組織力を持っていることを改めて示すことになった。これはポルトガルを（世界に）広める上で大変特別な仕事である」とツイッターに投稿した。本年のコンテストはイスラエル代表の女性が優勝した。



【写真】ユーロビジョンの会場を訪れたコスタ首相（左：同首相の公式ツイッターより転載）

（了）